

## **保育現場の事例発表**

### **「保育現場に見る音楽に関わる子どもの表現」**

#### **〔幼稚園での事例発表〕**

**中野圭祐氏（元東京学芸大学附属幼稚園小金井園舎教諭・現國學院大學人間開発学部子ども支援学科助教）**

#### **〔こども園での事例発表〕**

**乳児クラス・伊藤ほのか氏（文京区立お茶の水女子大学こども園保育士）**

**幼児クラス・伊藤幸子氏（文京区立お茶の水女子大学こども園保育士）**

保育現場の事例発表は、元幼稚園教諭であられた中野圭祐先生とこども園保育士であられる伊藤ほのか先生、伊藤幸子先生に、保育現場での様々な音楽表現の場面を取り上げ、お話しいただきます。

中野圭祐先生は2018年『音楽教育実践ジャーナル』で「こどもの歌の変貌、その是非」という特集が組まれた時、幼稚園教諭として座談会に参加され、幼稚園教諭時代のご自身の活動から多くの提言を出されただけでなく、日本音楽教育学会でもご自身の保育活動を発表されております。

伊藤ほのか先生、伊藤幸子先生からは、こども園の乳児クラスと幼児クラスでの事例をご紹介します。生活や遊びの中で音に気づき音を楽しんでいる0～2歳児の事例や、友達と一緒に歌ったり踊ったりすることを楽しんでいる3～5歳児の事例から、豊かな表現を支える保育者の在り方について考えます。

先生方からのお話は、保育者にどのような力が求められるのか、それ故養成校の音楽に関わる授業には何が求められるかを考える素地になると考えます。